

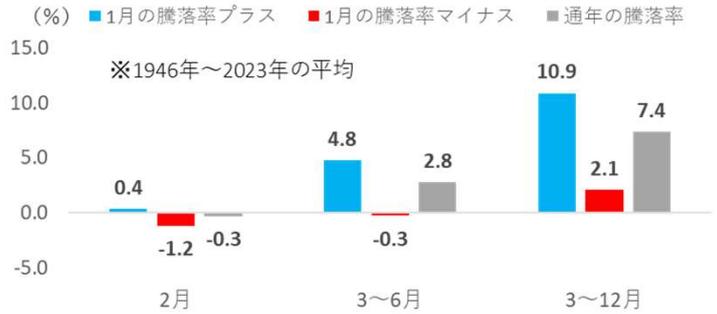


# 今年の米株「1月・2月」と「8～10月」の騰落率が超重要！

## ◆「1月・2月」の株価騰落率次第で3月以降の株価が決まる？

- S&P500の1月騰落率がプラスになり、続く2月もプラスだと、3～6月は+4.8%、3～12月は+10.9%となったのが戦後の平均値（図表①）
- 今年1月がプラス騰落率に着地するには4769.83以上で月末値が終了する必要がある
- 一方、1月騰落率がマイナスになり、続く2月もマイナスだと、3～6月は▲0.26%、3～12月で辛うじて+2.1%となるのが戦後の平均（図表①）

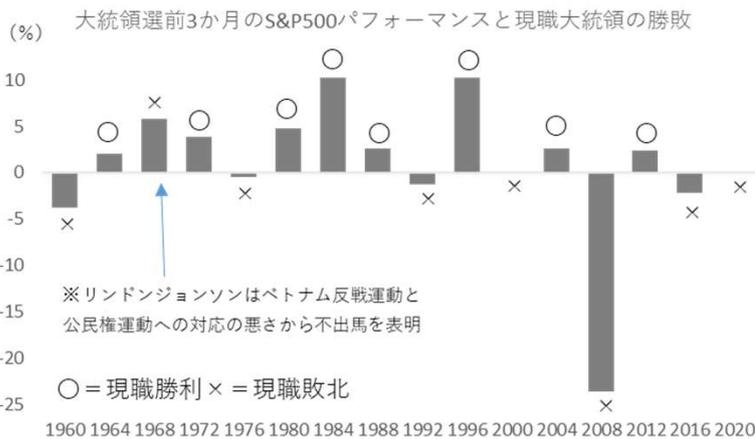
＜図表①S&P500 1月・2月の騰落率がプラスだと、3～6月 3～12月の騰落率はプラスに＞



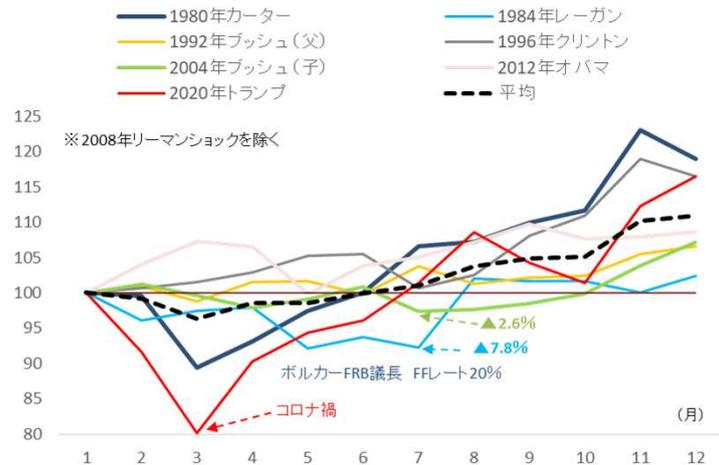
## ◆「8～10月」の株価はなぜ重要なのか？

- 1960年以降において大統領選前の「8～10月」の株価騰落率がプラスなら現職大統領は勝利、マイナスなら敗北した。例外は1回のみ（図表②）
- つまり、この時期は株価にポジティブな政策の打ち出しが、より強まりやすいと見ている、つまり金融緩和だろう
- 財政出動にも期待したいところだが、議会の反発もありハードルは高い、ゆえに金融緩和だ
- 夏場は大統領選前の不透明感から、株価が調整しやすいのが過去のアノマリー（図表③）
- 但し、夏場の下落幅は2度のハズレ値を除けば、調整局面の閾値である▲10にも満たない（図表③）
- その上、大統領選11月を境に、全ての年で株価は年初の水準を上回って着地した（図表③）

＜図表②大統領選前8～10月期のS&P500騰落率がマイナスだと現職大統領は敗北＞



＜図表③大統領選挙年のS&P500 (1980年～各年1月末 = 100)＞



## ◆上記を踏まえての投資戦略

- 1月、2月の騰落率がプラスなら株買い、夏場の調整で利食いもしくは、買い増し、年末高を狙う

※本稿に記載された意見、推定、見通しは、本稿の日付時点における執筆者の分析・判断に基づいています。それらは必ずしもニッセイアセットマネジメントの意見を反映しているとは限らず、また予告なしに変更される場合があります。



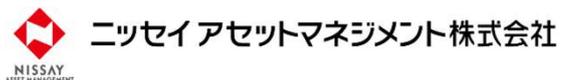
ストラテジストの視点

松波塾

### 【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

#### <設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等： ニッセイアセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会： 一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>